

JMoF実行委員会 活動報告書

2025年7月～2026年6月

1. 活動の成果

2026年1月9日(金)～11日(日)の3日間、ロワジールホテル豊橋にてJMoF 2026を開催した。参加者数の増加に伴い、とくに近年は会場内の混雑が激化し、参加者の安全確保が難しくなっていたことから、JMoF 2022以来となる参加登録者の上限数を設定した。結果として、当日を迎える前に事前参加登録および当日参加登録の予約が上限数に達し、当日はやむを得ず会場での新規の参加登録を受け付けなかった。参加登録者数は2524人と、前年に続いて過去最高を記録した。

企画では、ゲストオブオナーとしてイラストレーター／キャラクターデザイナーの渡辺けんじ(わたなべけんじ)氏を招聘し、トークショーやライブドローイングを実施したほか、8日(木)には前夜祭としてウルフムーンパーティーを初めて実施した。11日(日)夜のデッドドッグパーティーをもって全日程を終えるまで、会期中は参加者による持ち込み企画を含めて多数の企画を実施することができた。会場利用の面で言えば、ホリデイホールをフルに使用したほか、30階だけでなく29階も使用するなど、会場のほぼすべての施設を使い切った開催となった。

また、同日にVR JMoF 2026を、JMoF 2026内のVRラウンジおよびVRChatとResoniteの特設ワールドで開催した。実会場とVR会場を繋ぎながら多数の企画を実施したほか、VRプラットフォーム上での開会式・閉会式、Twitch上での公式配信を行った。1月24日(土)にはVRChatの特設ワールドでアフターパーティーも開催した。今大会もJMoFにとどまらない独自の企画を実施することができ、多くの参加者で賑わった。

年度全体の収支としては、JMoF 2026およびVR JMoF 2026の開催に係る支出と収入が大半を占め、収入が支出を上回る結果となった。参加費総額の5%およびラッフルの収益を対象とする豊橋総合動植物公園(のんほいパーク)への寄付額は5,229,650円と、過去最高の金額を記録した。

当会はかねてから新会場への移転について計画を複数策定して検討を重ねてきたが、上述したJMoFの参加者数の増加や会場の状況、および財務の状況を踏まえ、次回のJMoF 2027では新たに会場をAichi Sky Expo(愛知県国際展示場)に移して開催することとした。

2. 財産および損益の状況

(1) 貸借対照表

貸借対照表			
流動資産	30,557,660	流動負債	2,083,000
		純資産	28,474,660
資産合計	30,557,660	負債・純資産合計	30,557,660

(2) 損益計算書

損益計算書		
売上高		48,578,188
売上原価・販管費及び一般管理費		40,781,280
	営業利益金額	7,796,908
営業外収益		238,315
	経常利益金額	8,035,223
	税引前当期純利益金額	8,035,223
	法人税、住民税及び事業税	1,837,600
	当期純利益金額	6,197,623

3. 今後の方針

ここ数年当会が直面してきた課題のひとつに、JMoFの開催規模に対する会場規模の逼迫がある。第2回開催のJMoF 2014以来、JMoFはロワジールホテル豊橋を会場としてきたが、参加者の増加に対してたびたび対応を迫られてきた。2010年代後半には既に宿泊規模の逼迫、すなわち会場ホテルが提供する公式宿泊プランが予約の受け付けを開始した直後に完売するような状況が顕在化していた。これに対して当会では、豊橋駅周辺のホテルを案内するとともに、会場と豊橋駅を結ぶ無料シャトルバスを増発するなどの対応を行ってきた。しかし、2023年から参加者数が急増し、ここ2回の開催では2400人を超え、会場内の混雑が激化したことを受け、安全確保のために参加者数を制限するという措置まで講じることとなった。

このような状況に際し、JMoFの開催規模を抑制して現会場での開催を継続するという選択肢もあった中で、当会はJMoFの会場移転を決定した。参加者を制限することなく、当日も参加者を受け入れることができる環境を確保することが、JMoFの可能性をより広げ、ひいては当会が掲げる「ケモノ文化の発展を促す」という目的にかなうものであると判断したからである。国内外で開催されるケモノ／ファリーコンベンションの数や規模が全般的に拡大傾向にあることも、JMoFが国内および東アジアにおけるケモノ／ファリーコンベンションの旗艦となるべく、会場移転を伴う開催規模の拡大に挑戦することを後押しした。

この挑戦は、とくに財政面において楽観しがたい影響をもたらすことが予見される。当会はここ数年、JMoFの参加者数の増加による恩恵で安定した財務状態を維持してきたが、新会場でのJMoFの開催にあたっては、会場費をはじめ設備や警備など、必要な支出がこれまでより大幅に増加する見通しである。こうした支出をまかないつつ、今後もJMoF／VR JMoFの開催を持続するための資金を確保する必要性が生じている。当会の収入源は目下、参加費や物販売上などに大きく依存していることから、適切な価格設定について検討を継続するとともに、ケモノ／ファリー文化に関連する領域で活動する企業との連携についても検討を進める。

新会場でのJMoFの開催について、これまで培ってきた様々な運営ノウハウが通用しなくなる局面も多く想定される。新会場や周辺の施設および地域と連携をとりつつ、事故やトラブルのない大会運営をまずは目指したい。同時に、これまでのように参加者の多様な活動を受け入れ、数々の挑戦的な活動を実現できるようなケモノコンベンションとなるよう、当会は今後もJMoF／VR JMoFの運営を通じてケモノ文化のさらなる発展に貢献してゆく所存である。

以上